

令和2年度第2回さいたま市博物館協議会

令和3年3月26日（金）

さいたま市立博物館

目 次

- (1) 令和3年度事業予定について 資料1 1

- (2) 市立博物館企画展について 資料2 7

- (3) 市立博物館特別展について 資料3 14

- (4) 浦和博物館リニューアルオープンについて 資料4 17

(1)令和3年度事業予定について
さいたま市立博物館 事業予定

資料1

1 展示

	事業名	期間	備考
1	企画展「さいたま八景」	3/23(火)～5/5(祝)	
2	企画展「さいたまのJAPAN BLUE」	5/22(土)～6/13(日)	
3	夏休み子ども博物館	7/10(土)～8/22(日)	
4	さいたま市最新出土品展	9/11(土)～20(祝)	文化財保護課主催
5	特別展(仮題)「悠久の年月を超えて～さいたま市文化財展～」	10/9(土)～11/23(祝)	
6	さいたま市のうつり変わり與人々のくらし展	12/4(土)～R4/2/23(祝)	
7	企画展(仮題)「さいたまの生業～柿洪を中心として～」	R4/3/5(土)～6/12(日)	
8	太田資正関連資料展(コーナー展示)	R4/2/5(土)～3/27(日)	

2 講座

	事業名	期間	備考
1	子どもわくわく体験講座(土器づくり、おもちゃづくり、折り紙教室、藍染、自然観察など)	5月～11月	10回
2	初級古文書講座	5月～6月	全6回
3	藍染体験講座	5月～6月・10月	全4回
4	夏休み子ども博物館関連講座	7月～8月	30回
5	中級古文書講座	11月～12月	全3回
6	さいたま市民大学歴史コース「さいたまの文化財を知る」	10月～11月	全6回
7	特別展(仮題)「悠久の年月を超えて～さいたま市文化財展～」関連講座	10月～11月	5回
8	さいたま市のうつり変わり與人々のくらし展関連講座(たこづくり、昔のくらしの体験、万華鏡づくり、折り紙教室、動くおもちゃづくり)	12月～2月	5回
9	企画展(仮題)「さいたまの生業～柿洪を中心として～」関連講座	R4.3月	2回
10	展示解説(特別展・企画展)	各展開催期間中	4回

3 教育普及事業

	事業名	期間	備考
1	学校巡回展	4月～11月	
2	小・中学校等団体見学・体験学習受入れ	随時	
3	中学生職場体験「未来くるワーク」受入れ	随時	
4	博物館実習受入れ	7月	
5	出張講座	随時	

4 調査研究

	名称	期間	備考
1	特別展(仮題)「悠久の年月を超えて～さいたま市文化財展～」に関する調査・研究	10月まで	
2	企画展(仮題)「さいたまの生業～柿洪を中心として～」に関する調査・研究	R4.3月まで	
3	展示・講座に関する調査・研究	随時	

5 その他

	名称	期間	備考
1	資料の寄贈・寄託・貸出・館内利用	随時	
2	収蔵資料及び台帳整理(資料管理システムの更新)	随時	
3	古文書整理作業	通年	土呂村関係文書、土呂村小島一家文書
4	ボランティア活動(体験学習・古文書翻刻)	随時	
5	協議会等の参加(総会、研究会、研修会等)		
6	資料燻蒸及び殺虫消毒	6月～7月	期間中は臨時休館
7	令和2年度さいたま市博物館年報の発行	8月	

さいたま市立浦和博物館 事業予定

1 展示

	事業名	期間	備考
1	リニューアル通史展示	7月～	
2	トピック展示	7月～	
3	オリパラ関連展示	7月～9月	
4	コーナー展示(館蔵郷土玩具展)	1月～R4.3月	

2 講座

	事業名	期間	備考
1	リニューアルオープンイベント「管弦二重奏」コンサート	7/1(木)	バイオリン&チェロ
2	リニューアルオープン記念講演会「さいたまの宿場」 1. 浦和宿・大門宿 2. 岩槻宿 3. 大宮宿	7/2(金) 7/3(土) 7/4(日)	
3	夏休み小学生まが玉作り教室(3年生以上)	7/24(土)・25(日)・31(土)・ 8/1(日)	全4回
4	SDGs13子ども体験講座「遊びから学ぶ自然環境」	毎月1回	全9回
5	さいたま市誕生20周年記念「うらはく工芸くらぶ」(工芸講座)	毎月2回 *3月のみ4回	全20回
6	さいたま郷土研究コンソーシアム研究大会「さいたまの宿場」	秋季	2日間
7	小学生体験講座「農具・民具から学ぶ昔の知恵」講座	秋季	1回
8	「農具・民具から学ぶ昔の知恵」講座	秋季	1回
9	SDGs13親子自然塾「鳥から学ぶ自然環境」	冬季	6回

3 教育普及事業

	事業名	期間	備考
1	小学校団体見学・体験学習受入れ	9月～R4.3月	
2	中学校職場体験「未来くるワーク」受入れ	9月～R4.3月	
3	博物館実習受入れ	7月	
4	出前講座	随時	

4 調査研究

	名称	期間	備考
1	収蔵資料に関する調査・研究	通年	
2	ボランティア組織との共同による郷土研究の推進	9月～R4.3月	さいたま郷土研究コンソーシアム

5 その他

	名称	期間	備考
1	資料の寄贈・寄託・貸出・館内利用	随時	
2	収蔵資料及び台帳整理(資料管理システムの更新)	随時	
3	館報「あかんさす」第119号の発行	R4.3月	

浦和くらしの博物館民家園 事業予定

1 展示

	事業名	期間	備考
1	うつりかわるくらし	通年	
2	ミニ企画展「写真で見る古民家の復原」	7月～12月	
3	ミニ企画展「(仮題)干支の郷土玩具～虎～」	1月～2月	
4	季節の展示「雑飾り」	2月～3月	

2 講座

	事業名	期間	備考
1	昔のあそび塾	4/4・5/2・6/6・7/4・8/1・ 9/5・10/3・11/7・12/5・ R4.1/9・2/6・3/6(日)	12回、毎月第1日曜日(1月 は第2日曜日)
2	民家園しぜん塾	4/3・6/5・8/7・10/2・12/4・ R4.2/5(土)	6回、偶数月第1土曜日
3	子ども農作業体験講座	4/10・24・5/22・7/3・9/4・ 10/23・11/27(土)	7回 土曜日
4	見沼を歩こう(自然観察会)	4/18(日)・11月	2回
5	記念日講座(こどもの日、母の日、父の日、敬老の日)	5/5(水・祝)・8(土)・ 6/19(土)・9/18(土)	4回
6	季節の行事(七夕馬、小正月)	8月・R4.1月	
7	県民の日講座「昔の遊びを体験しよう」	11/14(日)	
8	もの作り講座(竹工芸、紙漉き、和凧、竹馬)	8月・11月・12月・R4.3月	4回
9	夏休みこども講座	7月～8月	10回
10	昔のくらし体験講座	R4.1月～2月	2回

3 教育普及事業

	事業名	期間	備考
1	小学校団体見学・体験学習受入れ	随時	
2	中学生職場体験「未来くるワーク」受入れ	随時	
3	博物館実習受入れ	7月～8月	
4	出張講座	随時	

4 調査研究

	名称	期間	備考
1	展示・講座等に関する調査・研究	随時	

5 その他

	名称	期間	備考
1	資料の寄贈・貸出	随時	
2	収蔵資料及び台帳整理(資料管理システムの更新)	随時	
3	ボランティア活動	通年	
4	ボランティア育成	5月・R4.3月	体験学習指導研修
5	園内環境整備	通年	

旧坂東家住宅見沼くらしっく館 事業予定

1 展示

	事業名	期間	備考
1	「端午の節句/鯉のぼり・兜飾り」	4/24(土)～5/5(祝)	
2	季節展示「端午の節句/軒菖蒲」、「正月飾り」等	5月～R4.3月	12回

2 講座

	事業名	期間	備考
1	小学生工房(竹馬、バードコール、竹とんぼ等)	4月～R4.2月	7回
2	端午の節句・折り紙コーナー	4/24(土)～5/5(祝)	
3	囲炉裏端で聞くわらしべの民話語り	5月～R4.3月	4回
4	くらしっく講座(野鳥観察、自然散策等)	6月～R4.1月	5回
5	公開行事(七夕馬作り、春の七草等)	7月～R4.2月	4回
6	夏休み小学生講座(竹の貯金箱作り、水鉄砲作り等)	7月～8月	4回
7	加田屋の年中行事(藁鉄砲作り、牛蒡注連作り等)	11月～R4.2月	4回

3 教育普及事業

	事業名	期間	備考
1	小学校団体見学・体験学習受入れ	5月～R4.3月	
2	中学生職場体験「未来くるワーク」受入れ	随時	
3	博物館実習受入れ	7月	
4	出張講座	随時	

4 調査研究

	名称	期間	備考
1	展示・講座等に関する調査・研究	随時	

5 その他

	名称	期間	備考
1	資料の寄贈・貸出	随時	
2	収蔵資料及び台帳整理(資料管理システムの更新)	随時	
3	囲炉裏の火入れ	随時	
4	館内環境整備	通年	樹木剪定等

博物館分館 事業予定

岩槻郷土資料館

1 展示

	事業名	期間	備考
1	収蔵品展	5月下旬～7月上旬	
2	夏休み関連展示	7月中旬～8月下旬	
3	企画展示	10月上旬～11月下旬	
5	人形関連展示	R4.2月中旬～3月下旬	人形のまち岩槻 まちかど雛めぐりに合わせて展示

2 講座

	事業名	期間	備考
1	講座	6月～7月	4回
2	夏休み体験講座	7月	
3	岩槻郷土資料館探検ツアー	8月～9月	1回
4	岩槻郷土資料館 講座	10月～R4.2月	5回

3 教育普及事業

	事業名	期間	備考
1	小学校体験学習受入れ	12月～R4.2月	
2	出張講座	随時	

与野郷土資料館

1 展示

	事業名	期間	備考
1	ミニ展示「里帰り！！ 与野でも出土した「和同開珎」	4/13(火)～5/9(日)	
2	ミニ展示「日本代表GK川島永嗣さんと与野サッカー」	7/13日(火)～8/29(日)	

2 展示物製作

	事業名	期間	備考
1	「赤山橋の石橋供養塔」模型製作		

3 講座

	事業名	期間	備考
1	お気楽講座		
	「鴻沼用水を歩く―北袋取入れ口から用水分岐まで―」	4/17(土)	ミニ展示1関連
	「日本の貨幣の歴史」と「造幣局の誕生」	4/24(土)	
	「一山行者と与野」	5/1(土)	
	「資料館でむかし遊び」	5/2(日)	小学生向け、大人也大歓迎!!
	「赤山通り・本町通りを歩く」	5/8(土)	
	「縄文土器の文様いろいろ」	5/30(日)	座学・実技
	「土器片で拓本採りに挑戦」	6/5(土)	座学・実技
	「中世といえばこれ！板碑の世界を探る」	6/12(土)	
「近世といえばこれ！庚申塔の世界を探る」	6/19(土)		
2	「ぐにやぐにやタコ作り」	冬季	小学生向け

4 教育普及事業

	事業名	期間	備考
1	小学校体験学習受入れ	12月～R4.2月	
2	出張講座	随時	
3	パンフレット(三つ折り)作製・配布		

5 展示web解説

	事業名	期間	備考
1	与野郷土資料館展示web解説	通年	

6 ボランティア

	事業名	期間	備考
1	解説、多世代交流での協同	通年	

(2)市立博物館企画展について

第31回企画展「さいたまの JAPAN BLUE」

- 1 会 期 令和3年5月22日(土)～6月13日(日) 予定
- 2 開催時間 9時00分～16時30分
- 3 休館日 毎週月曜日
- 4 会 場 さいたま市立博物館 特別展示室
- 5 趣 旨

第31回企画展「さいたまの JAPAN BLUE」は、さいたま市域における「藍」の歴史や文化の関わりを中心に取り上げたもので、最近では、藍の原料となる蓼の葉である「蓼藍」のエキスの中に新型コロナウイルス感染症を不活性化する効果が認められたとの研究発表がありました。また、大河ドラマ「青天を衝け」の主人公で、県を代表する偉人である渋沢栄一への関心が高まりつつありますが、彼の生涯を語る上でも「藍」は切り離せない縁があります。

そこで本展示では、さいたま市と「藍」との関連に重点を置いた前回(令和2年6月1日から6月14日)の展示内容に、渋沢栄一と藍の関わり、藍の殺菌作用など最新のトピックスを加えアップデートし、市民の皆様に関心をより深めていただけるよう、様々な角度から「藍」の最新情報を紹介します。

6 展示内容

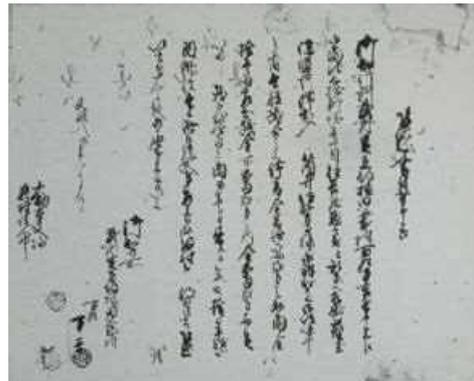
企画展「さいたまの JAPAN BLUE」を再度開催するもので、展示構成としては、「歴史」、「美術」、「科学」といった3章のテーマに分けて藍の魅力に迫るものです。さらに、藍に関する最新のトピックスを紹介すると共に、多角的な視点から藍の魅力を紹介いたします。

(1) 第一章 藍の歴史(語られる藍)

「JAPAN BLUE」とは、明治政府の招聘により東京開成学校の教員として来日した英国人化学者、ロバート・ウィリアム・アトキンソンが、当時、日本人の多くが身に着けていた衣服の色、「藍」に着目し、その色を「ジャパンプルー」と名付けたことに由来するものです。江戸時代初め、岩槻藩統治下にあった綾瀬川流域の村々には藍瓶役と呼ばれる税が課せられています。さらに、江戸時代後期には、江戸

を經由し全国的な特産物の交易が盛んとなります。文化・文政年間、さいたま市域の百姓と江戸の藍玉問屋が交流していた資料が確認され、当地でも藍染の文化が根付いていたことが判明しています。しかし、明治時代後期になると、ドイツで発明された化学染料が日本に輸入され、天然染料による藍染は徐々に廃れていきます。この章では、江戸時代から明治時代後期までの藍染の盛衰の経緯について紹介いたします。

<主な展示資料>



「植田谷本村小島家文書（文政八年）」 埼玉県立文書館寄託資料（複製）

文政8年（1825）、植田谷本村（現西区植田谷本）の百姓万吉と、江戸三拾軒堀町（現東京都中央区銀座一丁目）の有力商人の一人であった住吉屋惣兵衛との間で“藍玉染草代”の売掛金未払分の支払いをめぐり訴訟が起きています。この資料から、江戸時代後期、さいたま市域の百姓が江戸の有力商人との間に直接的交流があったことが判明し、当地においても藍に関する文化が盛んに行われていたことを示す資料です。



天弓愛染明王像（幕末～明治） 浦和博物館蔵

明治初頭、岸町（現浦和区岸町）に所在した福壽寺不動堂に納められていた愛染明王像です。愛染明王は、「愛染」を「あいぞめ」と読むその語呂合わせから、特に藍染商からその信仰を集めたと伝わります。近代まで全国各地で「藍染講」と呼

ばれる信仰形態がさいたま市域に限らず全国各地で確認されています。さいたま市域周辺では、熊谷市の愛染堂、板橋区の日曜寺等の愛染信仰が有名です。その代表として、岸町周辺で染屋の信仰を集められていたとも考えられる天弓愛染明王像等を紹介いたします。

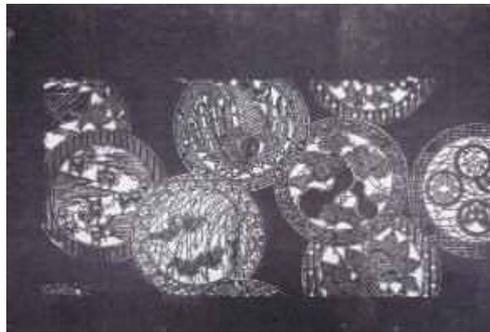
<その他の展示予定資料>

- ・ 吉田愛家文書 埼玉県立文書館寄託資料（複製）
- ・ 藍作及び製藍図会 徳島県所在三木文庫寄贈資料（複製） 他

（2）第二章 藍の美と技（魅せる藍）

江戸幕府は、庶民の贅沢を禁止し、着用する衣服の素材からその色合についてまで統制したと伝わります。こうした幕府の政策に対し、庶民は創意工夫を重ね、藍染の技術は日々進化していきました。染めの回数や甕に漬け込む時間を増すことで色に濃淡をつけ、さらに、他の染料と組み合わせることで何種もの藍の色合いを引き出すことが可能となりました。装飾性の観点からも、「長板中型」、「青縞」と呼ばれる特有の技法が誕生しました。この章では、藍の豊かな色彩及びそれを支えた技術に着目し、藍について美術的な視点から紹介いたします。

<主な展示資料>



砂村伊勢型紙（明治時代） 個人蔵

砂村（現見沼区東大宮）旧家において、近年まで保存されていた伊勢型紙です。明治時代、藍染にも関連する型彫の技術の高さを窺い知ることが出来る貴重資料です。この型紙は、経験豊富な技術者によって、緻密な技をもって彫られています。その技巧の高さを窺い知ることが出来る資料です。また藍色には 48 種もの色彩があると言われますが、本展示の目玉としてその多彩な色合いを紹介するため、この型紙を用いた 11 種の藍色で染色された生地を並べ展示します。

<その他の展示予定資料>

- ・砂村伊勢型紙を用い再現された木綿生地 11 点（藍染研究家山崎先生製作）
- ・刺子・印袴纏（当館蔵）
- ・2018 年ワールドカップ日本代表ユニフォーム勝色バージョン（個人蔵）
- ・勝色バージョンポスター（アディダス社提供） 他

(3) 第3章 藍の自然と科学（染める藍）

藍の原料となる「蓼^{たで}」という植物は河川流域の低湿地帯を好みます。さいたま市域は、西に荒川、東に元荒川と大型河川及びその支流が縦断し、蓼の生育に適した環境が存在しました。藍染を営む紺屋は、先代から引き継がれた経験を基に、独自の染料法を受継ぎました。職人の技術によって藍を染めるまでの工程は、「インディゴ」と呼ばれる成分が不可欠で、その特質を最大限引き出すための作業とも言えます。職人らの経験に基づく彼らの知識、それは「発酵」、「還元」、「酸化」、「結合」といった科学的分野からもきわめて合理的な化学反応を利用したものです。この章では、蓼の生育、藍染のメカニズムについて科学的見地から検証を試みたいと思います。

<主な展示資料>



柳家染物店写真資料（現：浦和区常盤、柳屋解体時個人写真）

平成 28 年まで浦和区常盤の中山道沿いに存在した元染物屋「柳屋」の藍甕の写真資料です。この藍甕は、「柳家」が染色業を廃業した昭和 30 年後半から解体直前までの約 50 年近く畳で覆われていました。建物自体は現存しませんが、このような形で近年に藍甕が発見される事例は稀少です。一年を通じ藍染が行えるよう、甕中の藍液を常に 20℃以上に保つため火鉢穴を用いていたことなど、染色のため工房内が創意工夫されていたことが判明しました。



藍蓼標本 個人蔵

藍の原料となる蓼^{たで}は、「蓼食う虫の好き好き」で知られる蓼科の植物で、「藍蓼^{あいたで}」と呼ばれます。言葉ではよく耳にすれども、実際の「藍蓼」の花を知る方は少ないと思われれます。河川氾濫によって肥沃な養分を有する荒川や元荒川あるいは支流を含めた周辺エリアの土壌は上質の藍葉を生産していました。藍蓼を押花にし、エポキシ樹脂による固化標本を展示いたします。

<その他の展示予定資料>

- ・岩槻柳屋藍玉・緞（岩槻郷土資料館所蔵）
- ・ウォード標本（ホソバタイセイ・西洋の藍染原料）（個人蔵）
- ・藍蓼標本（個人蔵）

（４）「藍」をめぐる最新情報

新一万円札の肖像に採用される予定であり、本年の大河ドラマ「青天を衝け」の主人公となった渋沢栄一は、利根川流域の血洗島村（現埼玉県深谷市）の農家で出生しました。藍葉の仲買人として14歳の若さで信州（長野県）や上州（群馬県）へ赴き、この経験により後の商魂の才を培ったと言われます。また、藍には、古くから抗菌作用があると知られ、鎌倉武士が肌着に着用した直垂を藍に染めたのには傷口を消毒する作用を期待したものだったと伝わります。令和2年1月に東北医科薬科大学とあおもり藍産業協同組合の合同研究として「あおもり藍」にA型インフルエンザウィルスを不活性化させる効果があることが認められました。さらに令和3年1月、奈良県立医大と寿スピリッツとの共同研究により、藍葉のエキスに新型コロナウイルス感染症を不活化させる成分が含まれることが立証されました。市民の関心も高い、渋沢栄一と藍の関わり、藍の殺菌作用など最新のトピックスを紹介いたします。



<主な展示資料（予定）>

- ・令和3年1月6日付新型コロナウイルスに対する藍由来抽出物の不活化効果に関するプレス向け情報（寿スピリッツ株式会社提供）
- ・板藍根（藍根を煎じた漢方薬・生薬）
- ・大河ドラマ「青天を衝け」第1回ロケ地写真：さいたま市指定文化財「永田家長屋門及び簾子堀」
- ・大河ドラマ「青天を衝け」ポスター（NHKさいたま放送局提供予定）
- ・渋沢栄一ゆかりの自治体（深谷市・東京都北区）の小学校に配布予定の蓼藍の種（NHKさいたま放送局提供予定）

7 関連事業（予定）

(1) 藍染体験講座2回

日時：5月28日（金）、6月4日（金）

各日 午前10時から午後3時まで

内容：Tシャツ・ストールを絞り染めで染めよう

講師：山崎利江氏（藍染研究家）

対象：一般（18歳以上）

定員：20人

費用：800円（材料費）

(2) 展示解説2回

期日：6月5日（土）・12日（土）午前、午後各1回

計4回実施予定

講師：担当学芸員

受付：午前 11 時～、午後 2 時 30 分～（各 30 分程度）

会場：さいたま市立博物館特別展示室内

定員：無し

8 新型コロナウイルス感染症対策

会場内での「3密」回避のための、国県市の指示による入場制限、ソーシャルディスタンスの保持、一方通行動線の設定、アルコール消毒液の設置、咳エチケットやマスク着用の館内表示、来館者記録場所の設置、高頻度接触部位の消毒及び換気の徹底に加え、「博物館の再開における対応マニュアル」に準じた対策を徹底します。

9 広 報 市報、ホームページ、Twitter 等に掲載。記者提供。

(3)市立博物館第特別展について

第45回特別展「悠久の年月を越えて～さいたま市文化財展～(仮題)」

開催要項案

- | | | |
|---|------|-------------------------------|
| 1 | 開催期間 | 令和3年10月9日(土)～11月21日(日) |
| 2 | 開催時間 | 9時00分～16時30分 |
| 3 | 休館日 | 毎週月曜日休館(但し祝日は開館)、11月4日(木) |
| 4 | 会場 | さいたま市立博物館 特別展示室 |
| 5 | 趣旨 | 現在、さいたま市は、東日本の交通網が集中する要衝となる一方 |

で、荒川や元荒川をはじめとするいくつもの河川が流れ、また、見沼田圃などの豊かな自然が広がっています。これらの自然環境がさいたま市各地の歴史や文化を特徴的なものとしてくれています。

私たち郷土の先人は、古代からこの地に長い年月をかけ生活を営む中で、様々な文化財を生み出し、後世へと伝え残してくれました。文化財は形あるものだけでなく、自然や技術、芸能など、様々なものに含まれます。これらの文化財を、今日、私たちが目にすることが出来るのは、これらを守り、現代まで引き継いでくれた先人たちの努力があったことを忘れてはなりません。また、これらは後世へと時空を超えて伝えなければならない、先人から未来への賜物でもあります。

本年は、さいたま市誕生から20周年を迎える記念すべき年です。今回の特別展では、市内に存在する国・県・市の指定文化財のうち、近年指定されたものや、今まで公開される機会がなかった資料を中心に紹介し、文化財の活用を図りながら文化財を保存することの意義について考えてみたいと思います。

6 展示構成及び主な展示資料

第1章 有形文化財

有形文化財は、歴史上・芸術上・学術上の価値が高い資料で、基本的にその姿を変えることはありません。種類も多岐に渡ることから、文化財の中でも大きなウェイトを占めており、

文化財の代表格とも言うことが出来ます。本章では、市民の注目度の高い島町薬王寺円空仏像群や、市内で現存最古の木造建築物であることが分かり県指定文化財ともなった中山神社旧社殿などを紹介します。

絵画	高木地蔵堂紙本着色十王地獄図（さいたま市立博物館寄託）
建造物	中山神社旧本殿（中山神社蔵・写真）、与野氷川神社（与野氷川神社蔵・写真）
彫刻	薬王寺円空作仏像群（薬王寺蔵）、宿観音堂観音菩薩立像（観音寺蔵）
歴史資料	岩槻城并侍屋敷城下町迄総絵図（さいたま市立博物館蔵）
古文書	慈恩寺文書（慈恩寺蔵複製）・慈眼寺文書（慈眼寺蔵複製）
典籍	紙本墨書大般若波羅蜜多經（浦和博物館寄託）
考古資料	稲荷原遺跡出土縄文時代早期土器及び石器（さいたま市立博物館蔵）
工芸品	三味線 古近江作（さいたま市立博物館寄託）

第2章 記念物

記念物には、史跡と天然記念物があります。歴史の流れやこれらを取り巻く環境の変化をもっとも受けやすい文化財であります。中でも、国指定特別天然記念物の田島ケ原サクラソウ自生地などが著名です。本章では、文化財保護の観点から記念物の価値を保つことの意義について考えます。

史跡	馬場小室山遺跡（さいたま市・写真）、真福寺貝塚（さいたま市・写真）、見沼通船堀（さいたま市・写真）
天然記念物	田島ケ原サクラソウ自生地（さいたま市・写真）、クマガイソウ（個人・写真）

第3章 民俗文化財

民俗文化財は、村々の風習や伝統行事にまつわるものが多く、我々の先祖たちが営んだ日常生活と最も身近な文化財です。年々、少子高齢化が進み、さらにコロナ禍においては練習や活動も中止を余儀なくされています。本章では、過去に撮影された記録動画や写真を紹介し、次世代にどのように引き継いでいくかについて考えます。

有形民俗	「岩槻の古式土俵入り」笹久保地区の天幕（笹久保古式土俵入り保存会蔵・借用）
------	---------------------------------------

無形民俗 鹿手袋の祭囃子（鹿手袋囃子連・写真）、その他無形民俗文化財（さいたま市・映像）

第4章 登録有形文化財

登録有形文化財は、従来の指定制度を補完するものとして、平成8年に導入されたものです。主に、築50年以上の近代建造物が登録の要件であることから、どこかノスタルジックな雰囲気を感じさせてくれるものが多く、かつての街の景観やその様相を伝えてくれます。本章では、このような魅力ある建造物について紹介します。

岩槻郷土資料館（旧岩槻警察署本庁舎・附属庁舎及び演武場）（さいたま市・写真）、
二木家（個人蔵・写真）、青山茶舗（個人蔵・写真）、加藤家住宅（個人蔵・写真）、
内木酒造（個人蔵・写真）、

- 7 刊行物 展示図録（60ページ予定、1,200部）
- 8 広報 チラシ13,000枚、ポスターA3判 4,750枚、B2判 500枚
市報、ホームページ等に掲載
- 9 その他 特別展関連講座（座学3回、関連イベント2回、計5回）、
展示解説 2回

(4) 浦和博物館リニューアルオープンについて

浦和博物館は、令和2年9月から中規模修繕工事を開始し、今年度末を以て満了する予定です。新たに生まれ変わる浦和博物館の展示は、1階が通史展示、2階がトピック展示とコーナー展示となります。



これまで、浦和博物館には講座室やレファレンスコーナーがありませんでしたが、1階は展示ケースを全て壁面に沿って設え、一方向導線で見学する通史展示とし、中央に広い空間を確保しました。ここで通常4、50名、コロナ禍においても2階吹抜けの3面を利用すれば40名の講座開講が可能となります。

また、これまで小学生の体験学習は野外園庭で行っていましたが、これからは雨の日の室内体験学習が可能となります。さらに、階段下の部分を書棚にアレンジし、レファレンスコーナーを設けることができましたので、来館された方々がゆっくり腰かけ、様々な資料を閲覧することができるようになります。

2階東南東の壁面は天井一杯まで面出し棚を新たに設置します。開館以来、浦和博物館において制作し続けた全紙大写真パネルを500枚以上所蔵していますが、収蔵庫の容積に限りがあるため、野外物置に眠っておりました。これを有効活用すべく、「見える収蔵庫」の実践を行ってまいり所存です。棚のひと枠には10枚前後収納でき、時期ごとに表に出るパネルを変えて、「写真で見るさいたまの歴史、人々の息吹」と銘打ち、御覧いただこうと思っております。

令和2年度 博物館入館者数

参考資料

(単位:人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	R02年度計(A)	R01年度計(B)	差引(A)-(B)(C)	増減率(A)/(B)(D)
市立博物館	0	0	817	1,050	1,754	1,368	5,439	4,629	2,019	1,701	1,290		20,067	45,958	-25,891	-56.34%
浦和博物館	0	0	197	0	0	0	0	0	0	0	0		197	12,612	-12,415	-98.44%
浦和くらしの博物館 民家園	0	0	2,486	4,375	4,179	3,311	4,607	5,407	3,642	3,400	4,534		35,941	54,760	-18,819	-34.37%
旧坂東家住宅 見沼くらしっく館	0	0	302	255	357	439	546	654	575	403	554		4,085	8,333	-4,248	-50.98%
岩槻郷土資料館	0	0	211	244	228	313	305	303	201	160	322		2,287	5,503	-3,216	-58.44%
岩槻藩遷喬館	0	0	284	303	117	292	692	731	287	172	674		3,552	5,242	-1,690	-32.24%
鴻沼資料館	0	0	30	21	26	14	29	22	24	11	24		201	349	-148	-42.41%
旧高野家離座敷	0	0	34	33	36	25	42	26	28	30	52		306	466	-160	-34.33%
与野郷土資料館	0	0	725	352	305	500	796	934	242	423	177		4,454			
計	0	0	5,086	6,633	7,002	6,262	12,456	12,706	7,018	6,300	7,627	0	66,636	133,223	-66,587	-49.98%

【参考】令和元年度 博物館入館者数

(単位:人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	R01年度計(A)	H30年度計(B)	差引(A)-(B)(C)	増減率(A)/(B)(D)
市立博物館	2,537	2,829	2,026	5,318	4,619	1,836	5,649	4,247	3,299	8,259	5,314	25	45,958	53,166	2,925	5.82%
浦和博物館	1,403	864	689	1,864	1,166	724	847	1,787	1,038	1,273	928	29	12,612	13,623	822	6.42%
浦和くらしの博物館 民家園	5,493	6,758	3,715	7,652	5,358	3,965	4,499	6,085	2,932	3,459	4,609	235	54,760	56,184	-2,310	-3.95%
旧坂東家住宅 見沼くらしっく館	818	847	1,017	769	546	561	913	961	628	610	645	18	8,333	9,373	161	1.75%
岩槻郷土資料館	421	440	307	926	838	367	284	752	225	337	555	51	5,503	5,751	-780	-11.94%
岩槻藩遷喬館	465	993	324	377	264	500	307	313	191	241	1,169	98	5,242	6,320	-362	-5.42%
鴻沼資料館	98	31	34	29	35	42	13	22	22	9	14	0	349	359	-93	-20.58%
旧高野家離座敷	52	53	41	27	37	42	37	50	23	33	65	6	466	534	6	1.14%
計	11,287	12,815	8,153	16,962	12,863	8,037	12,549	14,217	8,358	14,221	13,299	462	133,223	144,941	369	0.25%